

ミーラ通り

ユジノ・サハリンスク市を北から南まで走る広いミーラ通りは町の中央道の一本であります。長いなので、三分にされることです。北部、中央部、南部に分けられる道であります。

ロガートカ川から始まる北部は産業の中心地です。こちらには“ユジノサハリンスキー” ミルク工場、建築部品販売店、ローヂナ文化会館、韓国文化センターなどが位置しています。

中央部にはサハリン国立総合大学東洋学部の建物、ドーリンスク銀行、トレードセンターなどが位置しています。

ミーラ通り南部はベッドタウンです。それに、州立病院の町もこちらに建ててあります。

現代ミーラ通りは14500メートル全長のハイウェイであります。想像しにくいですが、以前この道の幅は2メートルだけであり、長さもサハリンスカヤ通りからリーブナヤ通り（現代名ブユクリー通り）まで短かったです。この部分以上に行くと小道しかありませんでした。

ミーラ通りは1946年に生まれ、1965年までに プレドゴールナヤ通り（山の前）と呼ばれていました。1945年に日本の兵営が火事で燃えてしまいました。その後一年後に住宅の建設が始まり、近い内に新しく建設された2階マンションに店子が入りました。

1947年にプレドゴールナヤ通りで農林高専（現代名工業経済高専）が開校されました。この高専は町の一番最初に開校された学校の一つであります。学生の人数は89人でした。1970年代の初めに学生人数は802人まで増えてきました。1982年にこの高専はゴーリコワ通りに移動しました。

1949年に町の建設マスタープランを元にして、町の北産業中心地の建設がはじまりました。同年に町の南部でベッドタウンの建設が決定されました。1950年にユジノサハリンスク市ミルク工場の建設が始まりました。現代ユジノサハリンスク市ミルクコンビナートは食品産業のリーダーの一つです。

1969年代にプレドゴールナヤ通りで石炭柄ブロック工場が建てられました。1962年からこの工場生産された石炭柄ブロックは町の主な建設現場で使用されましたが、ペレストロイカの時にいくつかの小さい会社に分けられて、結局破産されました。

町の南部には1964年まで町から6キロで離れた市立病院の地域でした。1957年にユジノ・サハリンスク市立病院はサハリン州立病院に再編されました。今日はサハリン州立病院はサハリン州のリーダーである医療施設です。州立病院の地域には入

院病室も、評議病院も、診断センターもあります。40以上の分科を含めています。毎年州立病院で治療を受ける患者の人数は17万5千人ぐらいです。

年の流れによって、ミーラ通りはきれいになっていました。道にアスファルトが掛けられました。小さいぼろぼろ家は大きなマンションに置換されました。工場も幼稚園も学校も文化会館も建設されていました。1965年にユジノ・サハリンスク市議会の決定でブレドゴールナヤ通り名をミーラ通り名に代わることにされました。ミーラ通りという名称の意味は平和の道です。この名称は町の戦争後の生活を鏡のように映り、深い意味を持っています。

1980年代にミーラ通りにはアスファルトを掛けてドーリンスク市とコルサコフ市まで続けました。そして、この道の道路は3ヶ所の町を繋いでいるようです。最初の12階のマンションが建設されました。ドーム・トルゴブリー商売センターの基本が設定されました。

2007年にサハリン韓国系人文化センターがドアを開きました。この2階のセンターの中に韓国語教室、コンピューター教室、図書室、300席の会議室、食堂、宿舎もあります。2007年7月にこのセンターの前でサハリンが日本領であった時失望した韓国けい坑夫の慰霊碑が立てられました。

その内、町の境が広がったり、町の建物も高くなったりしています。近来3ヶ所のトレードセンターが開店されました。2006年12月に形で海の波に似ている8階の“パシフィック・プラーザー”ホテルが開店されました。

現代のミーラ通りは多すぎる車を通す町のハイウェイです。2006年にサハリン州知事の主導でミーラ通りはユジノ・サハリンスク市の財物にされ、再建されました。道のカバーが置き換えられ、車が通る部分も広げられ、歩道も再建されました。この再建作業は今でも続きまして、ミーラ通りは益々きれいになって、サハリン州の首都であるユジノ・サハリンスク市のビジット・カードとなっています。